

4 主要な教育研究設備

4.1 主要教育研究設備

飛騨天文台

60 cm 反射望遠鏡、65 cm 屈折望遠鏡、60 cm ドームレス太陽望遠鏡 (DST)、
太陽磁場活動望遠鏡 (SMART)

花山天文台

45 cm 屈折望遠鏡、70 cm シーロスタット太陽分光望遠鏡、
花山天体画像解析システム、18 cm 屈折太陽 H α 望遠鏡 (ザートリウス望遠鏡)

4.2 平成 28 年度の主な改修改良事項

(1) 飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡の観測制御装置の更新

平成 28 年度の京都大学全学経費「設備整備経費 (教育・研究)」として、「飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡の観測制御装置の更新」を採択して頂くことができました。

ドームレス太陽望遠鏡 (DST) は、飛騨天文台に 1979 年に設立されました。以降、国内最大の地上太陽観測拠点として運用を行ってきており、学内における教育・研究に供されているだけでなく、全国の大学・研究施設から太陽や太陽系天体を専門とする科学者が実質上「共同利用」と言う形で毎年利用してきています。近年は、さらに海外からの観測者も受け入れているほか、将来の飛翔体観測 (次期太陽観測衛星「Solar-C」や Sunrise 気球実験等) 用の観測装置の開発に必要な実験設備としても活躍しています。

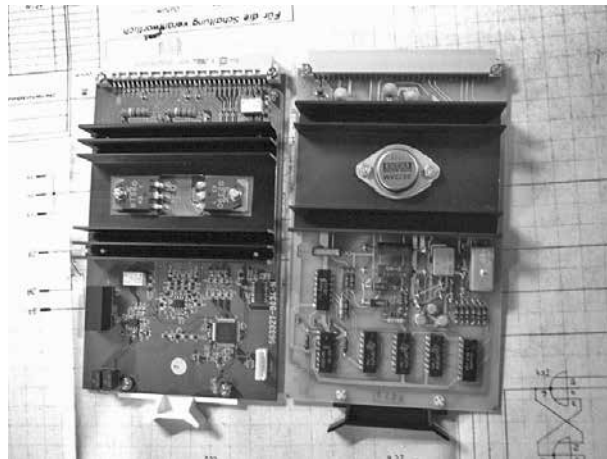


写真 1: 更新前と更新後の制御システム電子回路基板の比較一例。今回は特に既に製造中止となっている IC を使用している電子回路を中心に更新を行ないました。この更新により、電子回路の耐久性も大きく向上し、かつ回路が簡素化されたため、故障発生確率が大幅に抑制されました。